

阿部地先のトコブシとサザエの 漁獲サイズと個体成長の推定—Ⅳ

小島 博・宮崎 一誠・浜崎 晃

前年度に引き続いて、阿部漁業協同組合に水揚げされたトコブシ(方言ナガレコ)とサザエの漁獲サイズを測定した。この調査はトコブシとサザエ資源の増殖並びに保護上の問題点を明らかにすることを目的としている。

1 材料と方法

由岐町阿部地先から漁獲されたトコブシの殻長、サザエの殻高を測定した。測定は昭和59年7月17日から9月5日の間に、トコブシは5回、サザエは6回それぞれ実施した。1回の測定数はトコブシが107~197個、総計701個、一方サザエは1回の測定86~153個、総計757個であった。

2 結 果

トコブシの測定結果は図1に示す通りであった。殻長組成のモードは7月下旬に65~75mmであったが、

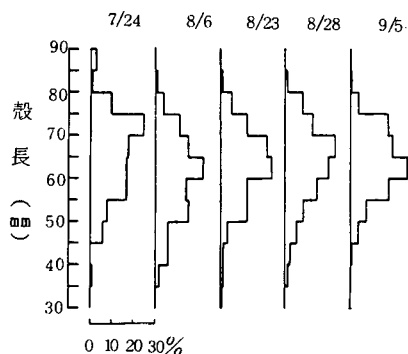


図1 漁獲トコブシの殻長組成(由岐町阿部)

その後には60~70mmに移行した。漁獲員の平均サイズは60~65mmであり、調査期間を通じては63mmであった。殻長50~75mmのトコブシは84%を占めていた。

サザエの測定結果は図2に示す通りであった。殻高組成のモードは7月中旬に60~70mm、7月下旬80~85mm、8月上旬65~70mm、8月下旬75~80mm、9

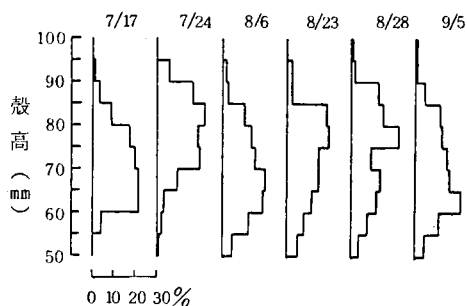


図2 漁獲サザエの殻高組成(由岐町阿部)

月上旬60~65mmと著しく変化した。漁獲員の平均サイズは69~78mmの間で、調査ごとに異なり、調査期間を通じての平均殻高73mmを挟んで上下した。殻高60~85mmのサザエが79%を占めた。

3 考 察

漁獲トコブシの平均殻長は56年以降大型化しており、本年度も前年より3mm大きい63mmであった。本年度は70~75mmサイズのトコブシが15.3%と昨年比へ5%多く漁獲された。漁獲量は3.8トンで前年比の58%に過ぎなかった。トコブシの漁獲の平均サイズはここ4年の間に9mm大きくなった。こうした大型化がどのように生じたか明らかでなく、漁獲量変動にも関連していると考えられるので今後検討する必要がある。

漁獲サザエの平均殻高は昨年より7mm大きい73mmであった。殻高70mm以上の大型貝が60%(58年度は31%)を占め、前年度報告¹⁾で指摘した新加入年級群が成長により漁獲の主対象となったことによると考えられる。本年度の漁獲量は前年より2.4トン多い12.9トンであった。サザエについても、トコブシと同様に漁獲サイズと漁獲量の関係についてさらに検討する必要がある。